

## 北海道フレンドリーは、平成26年5月大会終了後、幕を引きます。

平成26年12月27日更新

平成10年の発足から、平成26年3月大会終了後、足掛け16年の活動に終止符を打ちます。

北海道フレンドリーは、今まで、169回(平成26年3月時点)の大会を実施し、

参加者総数 約 36,000名とプレーヤーの皆様にご愛顧を賜りましたが、私自身の健康上の理由により、

平成26年3月の室内大会終了後、5月25日(土)にサヨナラ大会を最終大会とし活動を終了致します。

各地域の実行委員会の皆様、各地域のPG愛好者の皆様のご協力のおかげで、

1ヶ月平均にすると200名以上の大会参加者と、沢山の仲間を作ることが出来ました。

私どもが大会開催をしようとしたキッカケは、北村(現・岩見沢)教育委員会から、室内大会の開催を

要請されたことがはじまりでした。初めは、室内大会のみの開催を考えていたのですが、参加者の要請により

屋外でも開催する事としました。要因は、当時のパークゴルフの楽しみ方に違和感をもったからです。

平成10年頃のパークゴルフ人口は、公表346,000人ほどでした。競技大会(オープン大会)はほとんどなく、

各地域の協会の月例会が主体でした。道央圏の民間コースは、追分ファミリー、コトロPGコース、他少数。

そのコースも年間2回ほどのオープン大会しかありませんでした。その当時のパークゴルフ業界の風潮は、

パークゴルフとは、レジャースポーツであるため、仲間同士でスコアを気にせず楽しむものであり、

大会に出場してスコアを競い合うとトラブルが発生することが多い。従って、「大会に、はしるな」という風潮が

支配していました。しかし、そういう楽しみ方をしている限り、パークゴルフの大きな発展は望めない。

もっともオープン大会を増やし、協会に加入している人も、加入していない人も、地域も限定しないで

参加できる大会が必要である。地域間交流とともにその情報を自分の地域に持ち込むことにより、

総合的なレベルアップにつながり、パークゴルフの底辺拡大、普及拡大につながると思い発足させたのです。

発足に当たっては順満帆のスタートではありませんでした。官民一体ではありませんが、

協会とタッグを組んで、大会を立ち上げ普及発展につなげようと思い、協会に後援依頼を要請しました。

結果は、「支部、協会以外の大会は認めない」と猛反対され却下。

その為、北海道教育委員会に行き話をし、後援をしてもらうことにしました。

北海道フレンドリーの活動は、大会開催だけではなく、業界で最初に「パークゴルフ技術研修会」を実施し、

初めてパークゴルフをしたい人達の導入口になりました。又、色々な技術習得をしたい人達に喜ばれました。

研修会には教科書が必要ということで、パークゴルフ技術書「虎の巻」を長年かかって完成させ、

月刊誌、TVにもレギュラー出演し、パークゴルフの認知度を上げる事に少しは貢献できたかなと思います。

ルールについても、問答集ということで解りやすい形式にまとめました。ショットガン方式のスタート方法、

2ブロック制のスタート形式、シニア大会の最初の導入、片面で36R記入できるスコアカードの公開、

現在オープン大会を含め、多数の大会を開催している「えべつ角山パークランド」に最初の大会を

持ち込んだのも私どもでしたし、旅行会社のパークゴルフツアーも私どもの活動を見て、集客でき商売になる

と色々な企画を打ち出すキッカケになりました。(平成13年に北湯沢第二名水亭オープンを記念して

野口観光と共催で320名強を各地から募集し泊2日で大会を実施。これを機に各旅行会社が注目)

私どもで様々な事を実践してきたものが、パークゴルフ界に定着している事は、大変うれしく思います。

今後は、いつまで続けることが出来るか解りませんが、文字が打てる間は、ホームページを継続させ

「パークゴルフ情報サイト」として情報発信をしていければ良いなと思っておりましたが、

平成26年12月いっばいでホームページも閉鎖させていただこうと思ったのですが、皆様からの後押しもあり、もう少し、継続したいと思います。

ご支援いただきました皆様方の益々のご活躍を祈念いたしまして御挨拶とします。

主宰 事務局長

太田 昌亨